

社会力を育成する生活科授業

—第1学年「すなであそぼう」の実践から—

須本良夫

1 はじめに

生活科学習指導要領解説によれば、教科目標の趣旨として、

- (1)具体的な活動や体験を通すこと
- (2)自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持つこと
- (3)自分自身や自分の生活について考えること
- (4)生活上必要な習慣や技能を身につけること
- (5)自立への基礎を養うこと

といった5点が挙げられている。その中身についてはいろいろな形で語られているが、究極の目標とは(5)の自立への基礎を養うということになっている。

では、生活科でいう自立とはどのようなものだろうか。本校の生活科では、生活科学習指導要領解説に書かれているように、①学習上の自立 ②生活上の自立 ③精神的な自立という3つの自立について迫る授業を設計しようと試みている。

しかし、自立を考えるときには、子どもの実態や、保護者・地域の願いなどを抜きにして、真の自立へ向けているとは考えられない。現在の子ども様子はどうか、保護者は、地域はといったことを考えた上で、授業は設計されなければならない。

では、現在の子どもたちや環境はどういった様子なのであろうか。子どもや若者の社会性の不足はさまざまな形で指摘されている。例えば、紛失物への意識の希薄さが増すばかりの一年生。また、泥の中に手を入れたことがないという子ども。他にも社会性を疑うようなものは多くある。これは少子化の影響から保護者の囲い込みが原因で、子どもたちの体験の不足へとつながっていると考えられる。また、昨今の社会状況をさらに広く見れば、子どもの囲い込みの対局にある児童虐待の増加や放任など、保護者が原因となっている様々な社会問題が増加していることから伺える。

しかし、そうした状況の中でこそ、子ども自身が、今の自分や将来の自分の自立について学ぶことができる生活科とはどのようなものであるかを考えなければならない。また、自立の基礎とは何かをめざす必要がある。本稿では、そうした視点として、門脇厚司氏の述べられている「社会力」という言葉に着目をした。

門脇氏は、社会力を社会化と分けて次のように定義されている。

「社会化という概念は、ある社会に生まれたヒトの子がその社会の一人前の成員になっていく過程・・・(中略)・・・社会力は社会のある種の状態のことをいうのではなく、主体的に、好ましい社会を構想し、作り、運営し、改革していく意図と能力と、 そのための日常的な活動を含めた意味で用いる。」(①, pp.62-63)

生活科のどのような活動においても、人やものとのかかわりが必ず介在し、その相互のコミュニケーションを通じて子どもたちは人間的な成長をしていく。人とのかかわりの中で、相手の立場になって考えられる力と相手に対して好意的な思いを持つことが大切である。このことはやさしさや思いやりを育むことにも通じ、出会いの場、ふれあいの場、ふりかえりの場での活動において、子どもひとり一人が主体的に良好な人間関係を構築していくことになる。その結果、子どもは門脇氏のいわれるような、社会力(子どもが自分たちの力でよりよい家庭や学校生活、地域社会をつくりあげていくために必要な能力や意欲)が身に付くはずである。

2 指導の実際

(1) 単元について

子どもは本来遊び好きである。遊び道具が準備されていなくても、遊びを創作する天才である。生活科の授業の中で見られる、児童の遊びに対する創造性は無限の可能性を秘めている。到底遊び道具と思えないようなものまで子どもからみれば、遊びを考え出すことのできる存在である。

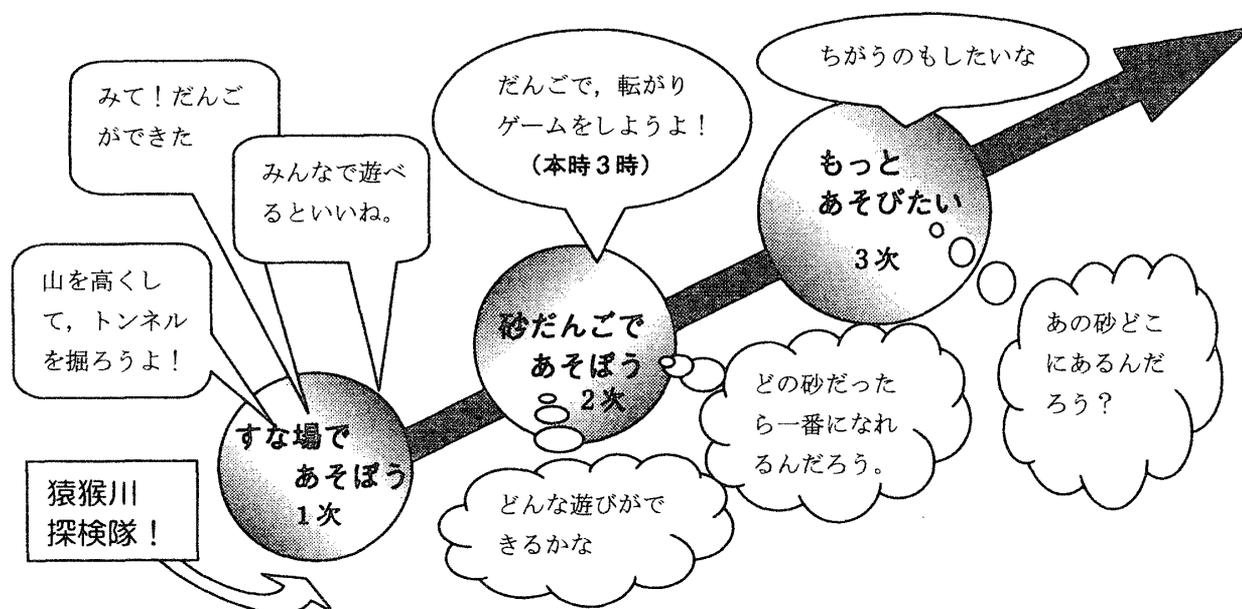
しかも、そこに自分以外の人がかかわってくれば、新たなルールが生まれ、遊び道具とされていたものは、別な存在に生まれ変わり新たな遊びを生み出すことさえある。本稿で扱う砂遊びは、一年生の子どもたちにとって没頭のできる好きな活動の一つである。

砂遊びの中には児童の力だけで、その形状の変化を認識することができるという要素も含んでいる。また、その変化を、友達との遊びやかかわりあいを通して、知的な気づきとして認識を深めることができるようになる。

そこで、以下のような学習仮説を設定した。

仮説	遊びの活動の中でくり返しの場を設け、その中に友達との考えを伝え合う場を設定すれば、自分たちの生活を作り上げようとする能力や意欲が育つであろう。
----	---

(2) 指導内容と計画



(3) 実践の概要

対象との出会い

砂遊びは、えんこう川探検の中で、子どもたちから川岸で砂を掘ったりトンネルを掘ったりしたいという希望からでた活動である。残念ながら護岸工事の影響でその活動には至らなかった。しかし、校内の中でどこからともなく土だんごをつくって見せてくれる子どもが現れた。そこで、校内でも砂遊びはできるんだ! という発見から砂遊びをしてみようという単元が設定された。

そこで、まずは対象に浸るために、1時間目はとにかく砂場で遊んだ。子どもたちは以下のような活動をはじめた。

この活動は個々での活動が中心であったが、一時間の活動の中で、しだいに友だちとのかかわりが生まれ始めた。たとえば、「一人で昼寝をします」といっていた子どもに、ほかの子どもが砂をかけ始め、大きな人型の人形作りが始まった。また、砂山づくりも、「トンネルを掘ろう」と言ってい

○山を作ってみよう



○だんごができたよ



○砂場で昼寝をしてみよう



○だんごはできる？



たのが始まりだったが、次第にトンネルが崩れないためには高くして固い山がある→高い山を作ろうと発展した。さらに、それを見ていたほかの山を作っていた子どもたちとの高い山比べになった。

そこで、集団でも砂遊びができるなら、クラスみんなのできる遊びを考えてみようということになり、「みんなで砂を使って遊ぼう！」ということに発展していく。

子どもたちの考え出した

ものは、「砂場での遊びの時に、砂だんごを山から転がしてトンネルに入れようとしていたのがおもしろかったからゲームにしてやってみよう」ということで、図1のようなものを考え出した。

いよいよ、ゲームに使う土だんごを作ることになった。この時、土だんごなんて簡単にできると思っていた子どもたちも、ゲームの前にちょっと試すために転がしただけで壊れてしまうということを見出し、ゲーム前に土だんごを固く作るには？という事で活動の繰り返しが始まった。



図1 土だんご転がしゲーム

学習の追求

子どもたちは、ゲームのルールという規制の中で、自分にも土だんごぐらいできると思っていたことができないことに引っかかりを感じ始める。そこで、「どうすればルールの中で勝てる土だんごができあがるか」ということを考え始める。しかし、よく転がる土だんごはできない。そこで、いい土だんごを作るために共同作業が行われ始める。

水の分量を考えるグループ、砂場の土以外へと材質を考えるグループ、乾かし方を考えるグループなどである。この作業の間、個の発見は互いに学びあうことになった。

こうして、各自ができあがった土だんごを持ち寄り、ゲームが行われた。

ゲームは2人ずつ順番に、斜面で転がして、だれの土だんごが遠くまで転がるのかを見るというものである。しかし、ゲームを行っているときにも、ルールの中で問題が生じてくる。ゲームを行いながら、子どもたちが軌道修正していかなければならない。A児の土だんごの表面が欠けた。しかし、転がった距離は長い。割れたのなら、当然失格という判定となるところだが、欠けるといふことで子どもにとって揺れが起きる。議論の末、欠けたとしても転がった距離の記録を認めることになる。

ゲームが続き、今度はB児の土だんごがA児に迫るところまで転がるが、土だんごは半分ぐらい

になった。形として土だんごの球形は分かるが、完全に割れている。しかし、B児は「割れていない。」と言い張り、他の子どもたちは欠けてもよかったのだから認めようという雰囲気になった。しかし、A児は「欠けたのと、壊れたのでは砂の量が違う。割れてはいけないのだから、ルールと違う」と指摘をする。その指摘に、B児の割れた土だんごの記録を認めようとしていた子どもたちも再び揺らいでしまう。

B児はしばらく友達の議論を聞いていたが、「A君だって、正確に言うと壊れたんじゃないか。認めてもらったんだから、僕のをいけないというのはおかしい。」と言い返した。割れることは予想されたが、どこまでを記録として扱うかということについて子どもたちもルールで考えていなかった。何が良くて、何が悪いかはそのときの基準で決めるしかなかった。

子ども達はB児の発言によって、割れていないということになびき、その結果、もとの土だんごの半分ぐらいは残っていないと記録としないというルールができあがった。

ゲームは、固く、きれいな球形をした土だんごが一番の転がりを見せた。その土だんごを作成した子どもは、自分ではそれほどすごいことをしたとは思っていなかったようだが、周囲の反応にうれしさをあらためて感じていた。

か	お	た	そ
だ	で	ち	
た	ん	ご	の
で	ご	よ	
す	ず	う	
く	に		
り	き		
は	も		
ち			
た	よ		
の	か		
し			

そ	げ	し	な	お	す	こ
の	ん	ま	る	お	そ	と
と	し	う	し	く	れ	が
き	て	か	し	に		
の	つ	ら	ず	た	む	
ず	く	水	く	ら	水	ず
ざ	り	の	な	ど	の	か
わ	ま	り	い	ろ	り	じ
り	し	よ	と	だ	か	
は	た	う	わ	ら	う	
を	れ	け	を	た		
お	か	て	に		で	

か	ん	に	つ	だ	き	12
た	ご	水	く	ん	よ	月
ち	が	を	る	ご	う	1
を	で	か	と	を	つ	日
う	き	け	き	つ	学	ち
ま	ま	て	く	枝	だ	金
く	し	す	り	の	ん	
と	た	こ	こ	ま	す	ご
と	ね	し	し	な		
の	て	土	た	ば		
え	お	の	で			
る	だ	下				

新たな出会い

一番転がった土だんごは、自分のとは何が違うのかを探らなければ、それに近いものはできあがらない。子どもたちは、瞬く間にきれいな球形の固い土だんごを作り始めた。しかも、自分なりの工夫を加え、よりよいものをめざしていった。

ある女の子が、ハテナ帳に土だんごのことを追究し続け、「土だんごの新聞記事を見つけた。」と言って持ってきた。これにより、他の子どもも、学校以外で砂の種類を変えて新しい土で作ってあげれば、違うものができるのではないかと感じていた。

3 考察

今回は、社会力の育成が重要であると、人とのかかわりに視点を当てて仕掛けとして取り組むことにした。その結果、以下の3点について検証できた。

①自分自身や対象へのこだわりを持つことができ、初めて他とのかかわりを持てる。

本単元のゲーム場面において、はっきりとした他とのかかわりあいが見られた。それを支えるものは、対象への自分なりのこだわりであろう。子どもによっては、同じように土だんごを転がして欠けても、みんなへ訴えない子どももいた。しかし、自分の土だんごが割れたり、欠けたりすることへの寂しさは見られた。土だんごは割れれば転がらないし、ルール上も記録としては認められない

いだろうと子どもなりに納得していた。

そこへ割れながらも転がる土だんごがでてきた。転がした子どもは、ルールの改正をみんなに訴えてでも、自分の土だんごを認めてもらおうという意志が働いていた。

この子どもの出現で、子どもたちはルールは自分の価値と全体の価値の中での合意点で、変えることもできるのだということを知っていた。

②遊びの活動の中には、競争場面（ゲーム化）を仕組むことが大切である。

生活科の学習には多くの活動がある。その中の遊びの活動では、個人遊びから集団遊びへと発展することによって、子どもたちの中へ集団への帰属意識が生じ、集団の中での自分を見つめ始める。遊びからゲームのような、競争場面のあるものを設定したとき、子どもは勝つためにはということ意識し、より人や集団の中での自分を考えることになる。

生活科の学習の中で、ゲーム化をしたとき人とかかわりは、活動の中で自然発生的に生まれることが多い。そうすると単にゲームをして終わり、その場にいた子どもでなければ、そのかかわりは見えなくなってしまう。ゲーム化を仕組むのであれば、単元の中で人とどういったところで、どのようにかかわりあいを持てるのかをあらかじめ意識して仕掛けなければいけない。また、そうした人とかかわりのある学習場面が、つながりや思考が深まる場面かというみとりの視点を持つ必要がある。

③単元全体の見通しを持つことで、対立場面にも自分の意見を持てる。

低学年の生活科には教科として、学ぶべき学習のスキルが多く存在している。その中の一つに、自分の学習を俯瞰できるようになるということがある。つまり、自分の学習を対象化していくことである。難しいことであるが、是非意識させたい。

活動の失敗の繰り返しから多くのことを学び、その繰り返しで気づきも表面的なものから知的なものへと高まっていく。そのためには、失敗の繰り返しが学習のどこで行われ、最終的にこの活動でどんなことをしていくのかということを知り、低学年の子どもなりに学ばせていく必要がある。

また、低学年児童は対象へ寄り添う傾向が強いため、他とかかわりの中で自分の意見を客観化し、学習の中でもふりかえりながら次の学習へ進んでいくことは重要な意味がある。

学級の中でそうした意識をできるだけ多くの子どもがもてるようになれば、どの子どもも失敗しながらも自分たちの活動に納得ができ、納得があれば失敗も生きてくる。その結果、全員が参加をして、単元をやり抜こうという力となるであろう。

社会力が他者とつながり、社会を作り、社会の運営に積極的にかかわり、よりよい社会を作りかえていこうとする意欲と、それを実行する構想力と能力を求めるならば、本単元の土だんごを転がして子どもたちの中に葛藤が起きた場面は、まさに社会力を意識させる場面であった。

生活科の学習において、遊びの活動を仕組むことがあるが、単に遊んで終わらせるのではなく、活動のどこかの場面において自立の基礎を養うべき場面を作る事が重要である。

【引用・参考文献及び参考資料】

①門脇厚司、『子どもの社会力』、岩波書店、1999、pp.62-63

②片上宗二・須本良夫編、『オープンエンド化による授業の創造』、明治図書、1995

③<http://www.educ.furukawa.miyagi.jp/fd3/index.html>